

義太夫

義太夫協会会報 第68号

平成11年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂 3F
TEL (3541) 5471
FAX

年頭に当たって

社団法人義太夫協会会長

景 山 正 隆

新年おめでとうございます。

昨年は義太夫協会役員の改選が行なわれ、心機一転を図りたい旨を八月発行の会報に記しました。世情は相変わらず厳しいようですが、年頭に当たり、わが義太夫協会は、これにめげずにより一層の発展を期したいと思えます。

昨年は、懸案の「全国義太夫人口実態調査」

(但し文案と義太夫協会は調査対象としない)を、冲永文化振興財団より助成金をいただいで実施することが出来ました。アンケートの回収に多少手間かかりましたが、私の把握している、全国各地の地芝居関係の一三五団

体、人形芝居関係の八四団体にアンケート調査をお願いして、地芝居関係六三・七パーセント、人形芝居関係七〇・二四パーセントの回収率で回答とリスト提供のご協力をいただき、また、別途に四七都道府県教育長または文化担当部長宛にもアンケートとリストの提供をお願いして二九の都府県からご回答をいただきました。

アンケートの結果は、昨年九月に集計表にまとめ、すでにご協力をいただいた団体に礼状を添えて送付しましたが、調査の主目的である義太夫人口については、提供されたリストに基づき玄人(セミプロも含む)・素人別

に、本行・竹本・太夫・三味線などに類別して人数を計上してみました。その結果、玄人は、合計一八二名(男性四五・女性一三七)となり、素人は、合計六七六名(男性五〇八・女性一六八)となりました。調査対象が殆ど地芝居と人形芝居の保存会に限られましたので、遺漏のあることは考慮するとしても、この数字は、現代の地方における義太夫人口の実態を如実に物語っているのではないかと思います。また、これは、往年義太夫が全国的に大流行した時代とは比較にならない程義太夫人口が激減していることを示しているのだと思います。後継者育成について、とりわけ深刻な問題を投げ掛けているのは、指導の可能な玄人の人材が極めて少なくなっているという実態です。

この義太夫人口実態調査は、平成八年の新年の会報に記しましたように、平成七年の淡路における「第五回全国人形芝居サミット」の「指導者と後継者」と題するシンポジウムにおいて、パネラーの一人として私が提言して実施することになったもので、目的は、全国義太夫人口の実態を調査して、その結果を踏まえ、義太夫節の指導者と後継者のネットワークをつくり、保存・伝承の具体的な対策を立てるという点にありました。

アンケートの結果はかなり厳しい状況を物語っていますが、「地元で後継者育成のため何らかの対策を立てているか」という質問に対して「立てている」と答えた団体が五八

(2頁下段に続く)

謹賀新年

今年もどうぞお引きたての程

よろしくお願い申し上げます



社団法人 義太夫協会

監事	理事	常務理事	副会長	会長	名誉会長	最高顧問
田川英史	吉川秀雄	田邊正隆	景山朝重	竹本素八	竹本素八	竹本素八
豊澤弘一	鶴澤幸平	鶴澤正一郎	鶴澤友賀	鶴澤津賀	鶴澤寛也	鶴澤素丸
池田明郎	豊澤弘一	鶴澤幸平	鶴澤正一郎	鶴澤友賀	鶴澤津賀	鶴澤寛也

(1頁下段より)

団体あり、「地元」に義太夫の習得を希望する人がいるか」という質問に対して「いる」と答えた団体が六九団体もあり、凡その希望者数が二六〇数名に及ぶということは、義太夫節のネットワークをつくる上に大いに希望を持たせてくれるのではないかと思います。

すでに、長野県の飯田では、飯田市と近隣に点在する人形芝居の保存会が協力して後継者育成を図り、協会正会員の竹本素八さんが長年に亘り出稽古に行っておられましたが、近年は竹本素八さんが引き継いで飯田まで稽古に行っておられます。さらに、一昨年、地芝居と人形芝居双方の伝統がある群馬県の赤城村教育委員会から、地元で義太夫節の伝承者を育成したいが、適当な方法がないだろうかという相談を受けまして、協会の正会員である竹本素八さんをお願いして、昨年の一月から、毎月一回赤城村に出稽古に行っていたことになり、十名程が稽古を始めましたが、昨年十一月に、国指定重要有形民俗資料の上三原田の舞台上演された「太十」の太夫を、メンバーの一人が初舞台で勤めることになった程の成果を収めています。これらは、義太夫節の全国的ネットワークをつくる上に大きな示唆を与えてくれます。

本年は、義太夫協会の一層の発展を期するとともに、義太夫節全国的ネットワークのために義太夫協会の果たすべき役割も、会員の皆さんのご協力をいただいて考えてゆきたいと思ひます。

お達者ですか

Part 3

豊澤源平師の巻



お師匠さんのところは、皆さん義太夫の御一家でいらっしゃいますよね。まずお父様が六代目豊澤源吉さん、師匠が小さい様の三代目豊澤団平さん。お父様の御本名が小林長十郎ですが…。

源 父はおじいさんの弟子で、私の母がお婿さんを取るところなんですけど、あちらの親御さんが、婿にはやれん、嫁はんに貰うのやったら結婚さすという事になって、おじいさんが折れて、その代わり子供が出来たら、一番上の子をこちに貰うという事になって、それで長女の私が養女に入ったんです。それで私は植畑で、父は小林なんです。そこからずっと東京へ行っておじいさんの傍にいてました。

お師匠さんの「源平」というお名前はお父さんとおじいさんから一字ずつ頂いているんですね。

源 本名も「榎長(ならちよう)」というんですけど、それはこのおじいさんに男の子が出来ると皆亡くなって、それで奈良にある榎神さんという神さんにお祈りして、出来た子には皆「榎」の字をつけます言うてお願いして女の子が無事生まれて、私の母は「榎栄(ならえ)」、その妹、私の叔母が「榎幸(ならこう)」、私の妹が、これは早く亡くなりましたけど「榎繁(ならしげ)」、今東京におる妹が「榎代(ならよ)」と、皆「榎」がつくんです。私の「榎長」の「長」は父の「長」を取ったんです。おじいさんがね、でも私は「殺生やわ、こんな名前つけて」と思っ、それから自分の子には分かりやすい名前ばかりつけてんです。学校でも歴史の時間に、先生が「奈良朝時代」と言わはると、皆一斉に私の顔見て「ウーッ」と笑うんです。それが嫌で嫌で(笑)。

三味線を初めて習われたのはいつ位からですか？

源 八つ位から長唄を先に稽古して、大正十年におじいさんが亡くなって、私はおばあさんと一緒に大阪へ帰って来て一緒に暮らしてまして、長唄が好きやったんで長唄のお師匠さんになりたいと言うてたんです。

ところが母が、うちは義太夫の家なんだから、よそへ行って苦労さんでもうちの芸を教えなさい、と父に言うて始めたのが十三歳位です。その頃から三味線は大好きで、御飯食べるより好きで、御飯よそうて貰うのを待つ間に三味線に手が伸びて、そのまゝ御飯食べるの忘れたり(笑)。それで因協会へ入るのに、本名の「榎長」を「榎千代(ならちよ)」として初御目見でしたんです。

東京にいらした頃は学校はどうなさっていたんですか？

源 おじいさんが蛸殻町におりましたんで、その有馬小学校という所に入ってたんですけど、言葉が違うと言うていじめられたんで、「絶対嫌や、学校行かへん」言うてやめて、その頃おじいさんの御連中さんの娘さんでちょうど同い年の子がいたんで、その子と千葉県の方へ八月ひと月間海水浴へ行っ、一緒に喋っているうちに東京弁をすっかり覚えてもうて、それでまた学校へ行きました。今度はいじめられへん言うて。それで夏休みにおばあさんと一緒に大阪へ帰る時も、静岡辺までは東京弁で、富士山見ると大阪弁になって、「この子器用な子や」言われて(笑)。

関東大震災には遭われなかったんですね。

源 それが、大正十年におじいさんが亡くな
ったんで、十一年、震災の前の年に大阪へ
帰ったんです。ほんと、助かりました。

源 阪神大震災の時は大変でしたね。

源 本当にね。でもうちはお陰さんでどうも
なくて、まあ家の中の物は潰れましたけど。
ちょうど東京へ行く筈の日だったんです。

源 現在の体調はいかがですか？

源 今日素人さんの会があったんです。明
日も「合邦」の奥弾かならん、老骨に鞭
打って(笑)。

源 今後の抱負をお聞かせ下さい。

源 今後言うたって、もう棺桶に片足突っ込
んでんねんさかい(笑)。まあ死ぬまで何と
か、三味線弾くの好きやし、何とか弾かせ
て貰うて、若い人にもお稽古をして。この
頃皆よう来て、よう勉強してます。

源 ぜひ東京にも来て、刺激を与えて下さい。

源 三月は私も寄せて頂きます。東京都の会
で、越道さんと「すしや」です。

源 本当に今日はお疲れのところを有難うご
さいました。



「豊澤 源平(とよざわ げんぺい)」

明治42年 幕末より続く義太夫三味線の家系
に、豊澤源吉の長女として大阪に
生まれる。

大正4年 この頃、祖父三世豊澤団平、父六
世豊澤源吉に師事。

昭和元年 東京にて「壺坂」のサワリを語っ
て初舞台(満六歳)。

昭和25年 三味線弾き豊澤千代として、大
阪に初御目見得。

昭和57年 豊澤源平と改名。
尼崎市文化功労賞

平成5年 勲五等瑞宝章

一義会報告

一昨年より、文京区春日のマンショ
ンを、稽古場として使用させて頂いて
いましたが、八月末に人形町に移転し
ました。高野俊雄様のご厚意で、マン
ションの一室を、会員の稽古場として
ご提供いただいたものです。

九月四日には、引越し祝いを兼ねて、
稽古場開きがあり、会員有志により「寿
式三番叟」が演奏されました。(写真)
月始めには、一カ月の予定がほぼ満
杯となるくらい、活用させて頂いてい
ます。



祝 第七〇回大日本素義会

昨秋十月十日、浅草の白鳥会館（鳥越神社内）で、第七〇回大日本素義会が開かれました。

幕開きには、おめでたい三番叟が演奏され、全二十番、義太夫教室のOB、OGの方も多数出演されました。多くのお客様が見守る中、皆さん大熱演で、この日の空の如く、さわやかで、清々しい会でした。

この記念の会を機に、大日本素義会の歴史をひもとくべく、当時のプログラムを拝見しながら、会長の菅野光雄様にいろいろとお話をお伺いしました。

○本日はおめでとうございます。まず皆様少なからず関心があるのではないかと思います。この「大日本素義会」という会のお名前の由来をお聞かせ下さい。

☆初代会長の加藤聚楽さんが、大日本食堂ホテル聚楽のオーナーだったので、そこから命名されたらしいですよ。私が会長になってから、今の時代に合う様に「大」の字を取るとか、いろいろと考えるはみましたが、現在に至っています。

○発足というか、発会は戦前ですか？

☆いや、昭和三十八年です。第一回目は、高輪の〇光クラブで、今の会場に移ったのは、第三回目からです。当時「東都五十義会」と「日本浄曲会」という二つの会があって、そ

れが合併されて「大日本素義会」となったわけです。

○メンバーは？

☆義太夫教室出身者と協会正会員の師匠方のご連中さんが殆どで、今と大体構成は同じですが、北は北海道から南は福岡まで、全国から参加者がありました。今と違う点はお楽しみの会というのではなく、「審査会」という形をとっていた事です。

○プログラムを拝見しますと、第一回目の参加者は、四日間開催で何と一〇七名ですね。それに審査員の顔ぶれもすごい。

☆え、当時第一線で活躍されていた、文楽の師匠方です。

（編集部注 豊竹つばめ大夫（現越路大夫）・竹本春子大夫・竹本津大夫・竹澤弥七・野澤勝太郎（敬称略）のお名前がありました）

○皆さん、緊張なさったでしょうね。



右 菅野光雄会長
左 上原操様
S59年の受付風景

☆そうですね、でも皆さん向上心というか、闘争心があったから、文楽の師匠の前で語れるという事は、すごい励みになっていったと思いますよ。三味線を弾く師匠方も、自分も審査されている様なものだから、はりきっていたんじゃないでしょうか。

○賞の覧を拝見すると、師匠方には「協力賞」という賞が出ていますよね、受賞されたのは、土佐廣、猿幸、三生の各師匠方……

他にもいろいろと賞の名前がありますが……

☆え、優秀賞に、新人賞、団体優賞……その「協力賞」というのは、ご連中さんを多く出して下さった師匠方への感謝の賞です。

○それから、この会場係、接待係、開票立台人、等々は？

☆あ、これは皆出演者が、各々係を分担して……何しろ百人以上の大所帯だから皆で会の運営に携わっていたんです。

○皆さん、「審査」と両方でしたいへんではないか。ではその審査方法について教えて頂けますか？

☆（審査は）とても公平に行なわれましたね。開票立会人のもとで開票して、五人の審査員の点数の上下を切って、まん中の三人の合計点で競ったんです。で、上から順に一位、二位……と決めて「優秀賞」として数十人が選ばれたんです。あと参加賞、団体優賞など他の賞が決まっています。第二回目からは躍進賞、新人賞も加わりました。

○躍進賞と言いますと？

☆例えば、前回一二〇点で、今回一五〇点



ぶんまわし

だったとしますね。そうするとプラス三〇点、このプラスの点が多かった人がもらえるんです。つまり、前回に比べてどれだけ進歩したかを見て頂けるんです。だから続けて会に出なくては意義がありませんでした。この審査会の結果は、相撲の番付と同じ様に発表したんですよ。

○正に自分との戦いですね。皆さん横綱を目指して頑張られたんですね。

☆三回連続して東の大関をつとめると横綱に昇進するんです。(注、初代は二代目会長松尾武市様) その後は、「無審査」という形での出演となります。

○横綱になったら、もう審査して頂けないのですか？

☆え、(笑)、引退でなく「卒業」という言葉の方がぴったりきますかね、後は、会の為に貢献するとか：当時この会は部屋別(師匠別)対抗の意味合いもあって活気がありましたね。

○審査会は、いつまで続いたのですか？

☆昭和六十二年までで、第五〇回を最後に、今の形に変わりました。その数年前から、開催日も四日間から、三日、二日とだん／＼少なくなってきた。

○やはり、時代の流れでしょうか。この点については、どう思われますか？

☆そうですね、まあ原因はいろいろあると思いますが、今の人達に「闘争心」がなくなってきた事もそうじゃないですか。師匠方も「審査」という事で、なか／＼自分のご連中さんを出さなくなって来たり：でも何といっても、教える師匠の絶対数が減った事です。

○成る程。発足当時のプログラムには、数えきれない程の師匠方のお名前がありますものね。

☆今の三・四倍、いやもっと多いですかね。○さて、現状をふまえて、今後についてはどの様に考えていらっしゃいますか？抱負もお聞かせ下さい。

☆今日みたいに、最近新しい人も増えてきているし、決して悲観はしていません。ただ、箱屋さんが高齢とか、心配事はありますけどね。でも発足当時みたいに、皆で係を担って会を盛り上げていけば、いろいろ／＼な問題も解決していくのではと思っています。「審査会」という形はとらなくても、向上心を持った人達が、どん／＼ふえて参加してほしいですね。現在春と秋の年二回、一日二十数番をここで開いています、参加者が増えればぜひ二日間やりたいと思っています。

○最後に何かございましたら：

☆今日まで続けてこられたのは、初代会長はじめ、数多くの諸先輩のお蔭だと思っています。中でも第一回から参加され、つい最近までこの会の名幹事として活躍された、六代目横綱の上原操さん(現群馬県在住)のご尽力も忘れる事は出来ません。そして最後になりましたが、関係師匠の御協力と、裏方として手伝って下さる協会の若手の皆様には深く感謝しています。この場を借りまして、御礼申し上げます。それから、この会に我こそは参加してみようと思われる方は、ぜひ私(菅野)までご一報下さい。お待ちしております。

○出の前の貴重な時間を頂き、ありがとうございました。(○編集部 ☆菅野様)

竹本弥乃太夫師勲五等瑞宝章

義太夫協会常務理事ならびに義太夫節保存会理事の竹本弥乃太夫師が、昨年の叙勲で勲五等瑞宝章を受けられました。11月3日新聞発表、10日奥様とともに皇居の伝達式に臨まれました。

「竹本弥乃太夫 略歴」

昭和23年 義太夫教室第一期入門
昭和26年 豊竹弥乃太夫として初舞台
昭和32年 竹本弥乃太夫に改名
昭和45年 社団法人義太夫協会設立、常務理事就任
昭和55年 重要無形文化財総合指定保持者となり、義太夫節保存会理事就任

大日本素義会と私

「青森駅は雪の中」の段 安田洋八

昭和五十六年二月、会社の人事異動で仙台から東京へ転勤となった。勤務と生活を優先せざるをえず、義太夫の稽古から遠ざかること十余年、もどるならこの時と、再び鶴澤重造師のもとに通うことになった。重造師はすでに文楽を引退され、体調も万全ではなかったが、熱心なご指導をうけることができた。

大日本素義会には五十六年秋(第三十八回)に初めて参加した。会場は今と同じ鳥越神社で、竹本越路大夫師、竹本津大夫師が舞台から見て右手に陣取り、審査をしておられた。ともかく落着いて義太夫を語れる喜びにひたった。

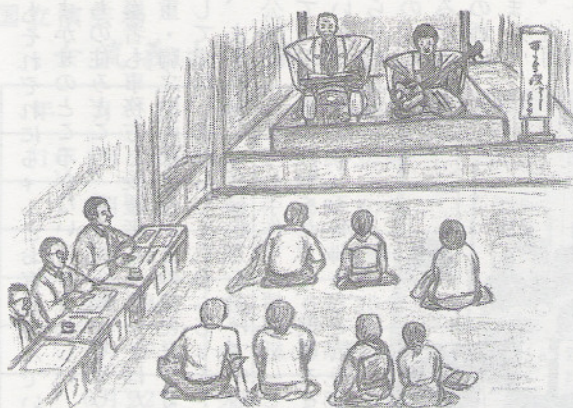
ところが翌五十七年二月、予期せぬ異動で青森勤務となった。仙台も青森も、もう義太夫の痕跡のない土地であり、こゝで稽古が途切れると、もう一生語れなくなるような思いにとらわれた。

長男が高校入学の年になっていたので、初めての単身赴任となったが、重造師の許しを得てテープで覚え、東京の留守宅へ帰る度に稽古に通った。いや、稽古で上京の度に、留守宅へ帰ったのかもしれない。おかげで平均月一回の上京をしており、結果的に家族との絆を保つことができた。

青森では近所迷惑にならないように窓を閉切り、大声で独り稽古をした。調子はハーモニカで確かめた。東京との往復はほとんど寝

台車を使った。金曜の夜十時に青森を発ち、翌朝六時に上野に着く。休日をフルに使えるわけである。日曜の夜に逆行する。月曜の朝目が覚めると一面の雪景色。この変化は劇的で感傷的にもなった。当時四十八才。まだ若かった。このような生活は二年間で終わり、その間の審査会四回すべて出場した。重造師と菅野光雄会長ほか友人のご協力のおかげである。

その後、今年の春、病欠するまで三十一回連続出場することができた。大日本素義会は素人義太夫の中心に位置する会であり、これからも、できるかぎり出場して盛り立てていきたいものと、七十回の節目に思う次第である。



素義会審査風景

上野広小路亭

「じよぎ」公演について

鶴澤津賀寿

一昨年のこと、「(株)永谷さんが、隔月二日ずつ、女流義太夫の若手に、お江戸広小路亭を提供して下さる。」と、越孝さんの伝令がありました。

上野広小路はかつての女流義太夫のホームグラウンド本牧亭があった土地であり、本牧亭閉鎖後は、国立演芸場という三百人収用のホールへ本拠地を移しましたが、保存会(義太夫協会と、義太夫節保存会、という先輩方だけの組織と二つある)中心の番組なので、若手の出番が少なくなっていました。

願ってもないお話に、朝重、駒之助両副会長を交え、若手の多くが集まって、どのようにこの公演を運営していくべきか何度か話しあいました。その結果、互選による運営委員のもと、受付や宣伝、舞台まわりのこと、めくりの字を書くこと、経理などなど、演奏以外のこともすべて自分達の手で行うことになりました。皆馴れぬ仕事なので行き届かないことばかりで、経理を預かる私などはしょっちゅう計算があわず、お客様の前で汗を流して電卓を打ってはご心配をかけています。過去二回、帳尻があわぬまましめています。不思議なこと二度ともお金の方が多いのです。皆様へのおつりをお渡ししていないのであろう、とはあるご常連様の言。

寄席形式のお客様との交流の中、お蔭様で若手は皆舞台数が増え、稽古場の争奪戦、という日々を送っております。今後も長くこの公演を続けることができますよう、お客様ならびに永谷様にお願ひ申し上げる次第です。

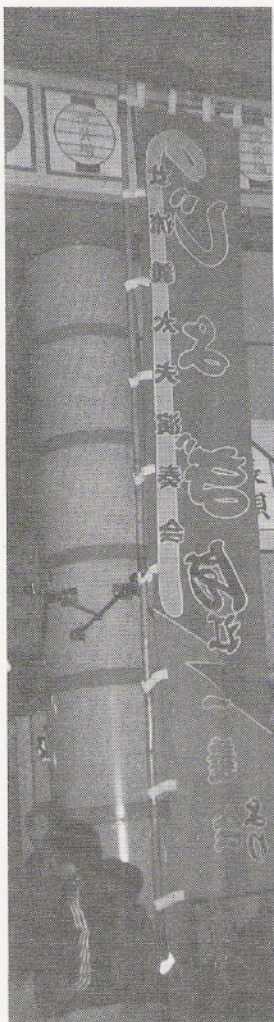
おかげさまをもちまして「じよぎ」公演も昨年の十一月で第九回となりました。今年も昨年と同じく奇数月の一、二日の公演ですので、どうぞよろしく願ひいたします。

「じよぎ」公演活況を見せる

池田弘一

七月一日、上野広小路亭に「じよぎ」公演を聞く。早い時間からお客が詰めかけてほぼ満席。「駒之助師匠がお出になるので」と言う出演者もいたが、そうばかりではないようだ。表通りでの呼び込みから受付、客席への案内まで、みんなやってる。大先輩といわれる人までが若い人と一緒に立ち働いている。だから場内の雰囲気、盛んだったところの本牧亭のそれに似通っている。若手の出演

者もそれぞれにちゃんとお客を呼んでいる。人まかせのところが無いのがうれしい。自分たちの住みどころ、義太夫の繁栄を思うなら演奏者も事務方も後援者も人まかせはだめ。朝重・駒之助両副会長がその気になってリードしてくれ、出演してくれる「じよぎ」公演は、まぎれもなく会員総力をあげての活気ある公演だ。ここでも手作りの情報紙「じよぎ」がお客の理解をたすけ、興味をそそいでいた。駒之助の「三浦別れ」で気持ちを高ぶらせた夜の、なじみの店での酒はうまかった。九月の一日、二日もみんなで感動の舞台をつくる。



協会の動き

’98年7月より
’98年11月まで

「平成10年度」

- 7月17日 邦楽振興基金決定通知
- 7月17日 第51期義太夫教室初級閉講
於演舞場スペースアルファ
- 7月22日 女流義太夫演奏会「鰻谷」他
於国立演芸場
- 7月30日 普及部会
於松竹会館会議室
- 7月30日 経理部会
於松竹会館会議室
- 7月31日 芸団協助成金申請書提出
於松竹会館会議室
- 8月20日 理事会
於松竹会館会議室
- 8月21日 女流義太夫演奏会「若手勉強会」
於国立演芸場
- 8月24日 東京都補助金申請書提出
- 8月27日 邦楽振興基金入金
- 9月1日 上野広小路亭「じよぎ」公演
於上野広小路亭(二日間)
- 9月2日 公演部会
於一義会稽古場
- 9月4日 一義会稽古場開き
- 9月7日 第51期義太夫教室中級開講
於演舞場スペースアルファ
- 9月21日 正会員資格審査
於国立演芸場研修室

9月21日	女流義太夫演奏会「沼津」他 於国立演芸場
9月24日	東京都補助金決定
9月25日	第三回「長月会」於上野広小路亭
9月28日	芸術文化振興基金説明会 於松竹会館会議室
9月29日	編集部会 於松竹会館会議室
10月1日	芸団協助成決定
10月3日	祖先祭 於回向院
10月10日	車人形出演 於八王子南野中学校 大日本素義会 於白鳥会館 「かぐらざか倶楽部」 於セッションハウス
10月12日	車人形出演 於八王子第一中学校
10月15日	車人形出演 於八王子川口中学校
10月21日	東京都法人個別調査票提出
10月22日	女流義太夫演奏会「揚屋」他 於国立演芸場
10月26日	東京都実績報告書提出
11月1日	竹本朝重リサیتال
11月2日	上野広小路亭「じよぎ」公演 於ガスホール 於上野広小路亭(二日間)
11月9日	車人形出演 於八王子長房中学校
11月10日	編集部会 於松竹会館会議室
11月22日	義太夫教室レコード鑑賞会 於演舞場スペースアルファ
11月23日	女流義太夫演奏会「忠臣蔵」(芸 術祭協賛) 於国立演芸場

これからの予定

*教室OB演奏会

二月二十七日(土) 東京証券会館ホール

十二時開演予定 (茅場町)

義太夫教室現在受講51期生の卒業発表と

先輩たちの演奏

入場無料

*「じよぎ」公演(上野広小路亭)

平成十一年公演予定

三月一・二日

七月一・二日

十一月一・二日

五月一・二日

九月一・二日

*第四回駒之助の会

二月二十八日(日) 紀尾井小ホール

二時開演予定

*東京都邦楽連合会

三月十三日(土) 朝日生命ホール(新宿)

△昼の部▽正午開演

壺坂靈驗記 壺坂寺の段

沢市 竹本朝重

お里 竹本朝重

三味線 鶴津賀寿

△夜の部▽四時開演

義経千本桜 すしやの段

浄瑠璃 豊竹本越道

三味線 澤源平

国立演芸場 女流義太夫演奏会

年 月 日	曜	上演時間
11年1月22日	金	6時30分
2月24日	水	6時30分
3月22日	月	*1時
4月22日	木	6時30分
5月28日	金	6時30分
6月22日	火	6時30分
7月23日	金	6時30分
8月22日	日	*1時
9月22日	水	6時30分
10月22日	金	6時30分
11月24日	水	6時30分
12月22日	水	6時30分
12年1月23日	日	*1時
2月21日	月	6時30分
3月23日	木	6時30分

月により日程・開演時間が違いますので
ご注意ください。*印は昼間の公演です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会員御紹介(五十音順・敬称略)

住所(住居表示)等変更

義太夫協会の事務所が移転しました

新しい事務所は、文明堂(歌舞伎座のとなり)の3Fです。

〒104-0061 中央区銀座4-13-11 文明堂3F

電話・FAX 変わらず

【編集後記】

○68号より編集長になった新米ですが、部員はベテラン揃いで頼もしく、お蔭様で何とかなったと、ほっとしています。(T)

○新メンバーによる初めての作業。期待通り動いてくれる人がいる、というのは何て楽なんでしょう！今まで三日かかっていたのが一日で完成！新K&Sちゃん万歳！(K2)

○初めての会報づくりは大変でした。今年も明るいニュースで紙面が一杯になりますように！(Y&新K)

○横浜ベイスターズ今年も優勝だ！(S)

〈寄付〉

大日本素義会様

十万円

祖先祭回向料

和田博様

一万円

池田弘一様

一万円

高野俊雄様

五千元

〈寄贈〉

豊島佳子様(竹本春華師御遺族)

奥村由伎子様

肩衣
三味線一丁

〈訃報〉

渡辺 守(特別会員)

平成十年十月二十二日逝去

ご冥福をお祈りいたします。